

未来へ、走り続ける。

70th
ANNIVERSARY

MEMORIAL BOOK



◎馬券は20歳になってから ほどよく楽しむ大人の遊び

◎競馬場・ウインズへは電車・バスで

◎馬券は正規の窓口で

Table of Contents • 目次

P.1-2	JRA70周年特別企画 メモリアルヒーロー 投票結果
P.3-8	リーディングジョッキー座談会 中央競馬の現在地 [出演] クリストフ・ルメール × 戸崎圭太 × 川田将雅
P.9-10	著名人が語る思い出の馬 [出演] 杉本清さん/小林薫さん/ DAIGOさん/川島明さん/ 渡辺明さん/田中将大さん
P.11-14	ニューホープ座談会 描く、将来へのビジョン [出演] 坂井瑠星 × 藤田菜七子 × 岩田望来 × 菅原明良 × 永島まなみ
P.15-24	HEROがくれたもの 甦る、70年間の名馬、名シーン 1. 希望 ～歴史的シーンを生み出したHERO 2. 驚き ～大歓声・どよめきを巻き起こしたHERO 3. 勇気 ～その走りで感動を与えてくれたHERO 4. 夢 ～世界に挑戦したHERO 5. 強い気持ち ～至高の対決を繰り広げたHERO
P.25-26	JRA70年の歩み

JRA 70周年 特別企画 **メモリアルヒーロー**
歴代GI優勝馬から選ぶファン投票最終結果

こちらの投票は2023年に70周年メモリアルヒーローファン投票として実施しました。
なお、同一の競走馬が複数のレースで1位となった場合、その競走馬は最も多く票を獲得したレースの「メモリアルヒーロー」としています。
その他のレースにつきましては、2位以下となった競走馬から得票数の多い順に繰り上げとなっています。

フェブラリーステークス	高松宮記念	大阪杯	桜花賞	皐月賞	天皇賞(春)
コパノリッキー 	ロードカナロア 	キタサンブラック 	ダイワスカレット 	ドウラメンテ 	ライスシャワー 
1位 コパノリッキー 34,015票 2位 メイセイオペラ 26,692票 3位 ノンコノユメ 21,377票 4位 アグネスデジタル 19,598票 5位 カネヒキリ 16,757票	1位 ロードカナロア 48,297票 2位 キングヘイロー 41,547票 3位 カレンチャン 18,876票 4位 フラワーパーク 14,397票 5位 キンシャサノキセキ 12,714票	1位 キタサンブラック 108,842票 2位 レイババレ 40,311票 3位 ラッキーライラック 30,060票 4位 スワーヴリチャード 17,646票 5位 アルアイン 10,719票	1位 アーモンドアイ 44,235票 2位 ダイワスカレット 21,760票 3位 ハーブスター 18,984票 4位 グランアレグリア 18,890票 5位 ブエナビスタ 12,422票	1位 ドウラメンテ 30,004票 2位 コントレイル 23,767票 3位 ゴールドシップ 23,530票 4位 ディープインパクト 20,417票 5位 アグネスタキオン 12,039票	1位 キタサンブラック 32,357票 2位 ライスシャワー 24,025票 3位 メジロマックイン 23,172票 4位 ディープインパクト 21,729票 5位 ゴールドシップ 19,390票
NHKマイルカップ	ヴィクトリアマイル	オークス	日本ダービー	安田記念	宝塚記念
キングカメハメハ 	ウオッカ 	エアグルーヴ 	ディープインパクト 	タイキシャトル 	サイレンススズカ 
1位 キングカメハメハ 39,460票 2位 エルコンドルパサー 32,394票 3位 クロフネ 28,940票 4位 ミッキーアイル 13,451票 5位 アエロリット 12,103票	1位 ウオッカ 51,167票 2位 アーモンドアイ 39,126票 3位 グランアレグリア 35,722票 4位 ブエナビスタ 15,569票 5位 ヴィルシーナ 13,010票	1位 アーモンドアイ 39,573票 2位 エアグルーヴ 25,815票 3位 ラヴズオンリーユー 18,509票 4位 シーザリオ 16,863票 5位 ジェンティルドンナ 16,666票	1位 ディープインパクト 33,449票 2位 ウオッカ 22,394票 3位 コントレイル 18,581票 4位 キズナ 16,098票 5位 オルフェーヴル 13,057票	1位 ウオッカ 31,379票 2位 グランアレグリア 25,329票 3位 タイキシャトル 23,676票 4位 オグリキャップ 17,273票 5位 ジャスタウェイ 12,535票	1位 サイレンススズカ 38,156票 2位 クロノジェネシス 29,498票 3位 ゴールドシップ 25,490票 4位 オルフェーヴル 12,025票 5位 ディープインパクト 10,347票
スプリンターズステークス	秋華賞	菊花賞	天皇賞(秋)	エリザベス女王杯	マイルチャンピオンシップ
サクラバクシンオー 	アカイトリノムスメ 	キセキ 	エイシンフラッシュ 	ラッキーライラック 	グランアレグリア 
1位 サクラバクシンオー 38,112票 2位 ロードカナロア 32,235票 3位 グランアレグリア 27,439票 4位 デュランダル 14,132票 5位 カレンチャン 10,862票	1位 アーモンドアイ 36,168票 2位 ダイワスカレット 19,931票 3位 アカイトリノムスメ 19,292票 4位 ファインモーション 17,799票 5位 クロノジェネシス 17,486票	1位 ディープインパクト 23,225票 2位 コントレイル 18,473票 3位 キセキ 17,575票 4位 ナリタブライアン 13,884票 5位 オルフェーヴル 13,210票	1位 アーモンドアイ 38,497票 2位 キタサンブラック 20,150票 3位 ウオッカ 19,035票 4位 エイシンフラッシュ 14,691票 5位 エアグルーヴ 13,643票	1位 ラッキーライラック 32,397票 2位 スノーフェアリー 22,561票 3位 リスグラシュー 18,093票 4位 ヒシアマゾン 15,605票 5位 ダイワスカレット 15,431票	1位 グランアレグリア 44,266票 2位 タイキシャトル 23,092票 3位 オグリキャップ 17,063票 4位 デュランダル 15,080票 5位 ダイワメジャー 11,997票
ジャパンカップ	チャンピオンズカップ	阪神ジュベナイルフィリーズ	朝日杯フューチュリティステークス	有馬記念	ホープフルステークス
アーモンドアイ 	クロフネ 	ブエナビスタ 	サリオス 	オルフェーヴル 	コントレイル 
1位 アーモンドアイ 48,847票 2位 コントレイル 24,691票 3位 ディープインパクト 16,449票 4位 スペシャルウィーク 12,540票 5位 ジェンティルドンナ 12,221票	1位 クロフネ 69,134票 2位 ホッコータルマエ 24,291票 3位 カネヒキリ 19,388票 4位 チュウワウィザード 14,586票 5位 クリソベルル 11,503票	1位 ラッキーライラック 27,067票 2位 ブエナビスタ 21,039票 3位 ウオッカ 21,034票 4位 ヒシアマゾン 16,242票 5位 ダノンファンタジー 11,181票	1位 サリオス 33,891票 2位 グラスワンダー 30,911票 3位 フジキセキ 17,998票 4位 ナリタブライアン 16,403票 5位 ダノンプレミアム 13,548票	1位 オルフェーヴル 32,585票 2位 オグリキャップ 29,351票 3位 トウカイテイオー 24,675票 4位 ディープインパクト 19,839票 5位 キタサンブラック 17,726票	1位 コントレイル 135,717票 2位 サートゥルナーリア 51,904票 3位 タイムフライヤー 12,074票

クリストフ・ルメール × 戸崎圭太 × 川田将雅

中央競馬の現在地

2014年から2023年の10年の間にJRAのリーディングを獲得した3人のジョッキーが集い、騎手としての「リーディング」というタイトルの価値や、今の日本競馬について感じていることなどを語り合う。

司会：鈴木淑子／撮影：山本輝一 ※この座談会は、2024年6月3日に収録したものです。



THEME 1

リーディング

鈴木 まず最初は、リーディングジョッキーというタイトルについて、戸崎騎手からお伺いします。

戸崎 騎手は2013年に大井競馬からJRAに移籍され、翌年の2014年から3年連続でJRAのリーディングを獲得されました。大井在籍時はNARの全国リーディングに4回輝かれていましたが、やはりJRAでも、という思いは強くお持ちでしたか。

戸崎 そうですね。やはりジョッキーをやっている以上は一番になりたいという気持ちは、ずっと持ち続けていましたから。

鈴木 大井在籍時からJRAでも騎乗はされていましたが、実際に移籍されてみての印象はいかがでしたか。

戸崎 馬場もスタンドもお客さんの数も、やっぱり全部がスケールが大きいなというのは感じていましたね。

鈴木 移籍によって騎乗のしかたを変えた部分などはあるのでしょうか。

戸崎 盛岡を除いて地方競馬には芝のコースがないので、そのあたりの試行錯誤はありました。ただ細かい部分は別として、最終的には大きく変えることはないという答えになりました。

鈴木 その結果、移籍2年目から3年連続でリーディングを獲得されました。

戸崎 目指していたものを2年目で取れてとても嬉しかったです。地方とJRAの両方でリーディングを取れたことは、自分でも誇りに思っています。

鈴木 続いてルメール騎手にお伺いします。それまでも短期騎手免許で活躍されていましたが、2015年よりJRAに籍を置かれ、3

年目の2017年に初めてリーディングジョッキーに輝かれました。その前の年までリーディングだったのが戸崎騎手なんですよ。

ルメール 前の年は、1勝差で負けました。

戸崎 僕の3度目の年ですね。

鈴木 ルメール騎手は、やはり戸崎騎手へのライバル意識はありましたか。

ルメール もちろんです。リーディングジョッキーですから。馬場ではライバルですけど、とてもフェアで、僕の大好きなジョッキーです。

鈴木 そして2017年、戸崎騎手を抜いてリーディングを獲得されました。

ルメール 母国のフランスで取れなかったリーディングのタイトルを日本で取ることができて、すごく嬉しかったです。JRAに移籍した最初の年に結構勝って、次の年はあと1勝でリーディングというところまでできていたので、これなら絶対リーディングジョッキーになれると思って、全てのレースを勝つつもりで乗っていました。

鈴木 そして、そこから2021年まで5年連続、そして昨年の2023年もリーディングジョッキーを獲得されました。これだけリーディングを続けられる秘訣は何ですか。

KEITA TOSAKI

【2014年有馬記念優勝】ジェンティルドンナ×戸崎圭太



地方とJRAの両方で

リーディングを取れたことは、

自分でも誇りに思っています

2014~2016年
リーディングジョッキー
とさき けいた
戸崎 圭太

PROFILE

1980年7月8日生まれ、栃木県出身。98年、南関東の大井競馬で騎手デビュー。2011年に安田記念をリアルインパクトで制し、JRA・GI初制覇。13年にJRAに移籍すると、翌14年から3年連続リーディングジョッキーに輝く。22年には自身4回目となるJRA賞MVJを受賞し、24年には6月16日東京第10RでJRA通算1500勝を達成した。JRA通算成績は10427戦1520勝、うちGI・12勝を含め重賞74勝（24年7月28日終了時点）。

ルメール ジョッキーには調教師とオーナーのサポートが必要です。例えば僕は、藤沢和雄元調教師と毎年20勝以上を一緒に勝っていました。そういういい関係を作っていたので、毎週、チャンスの多い馬に乗れました。いい馬に乗る、だから勝つ、勝つからまたいい馬に乗れる。リーディングジョッキーになれるということは、たくさんいいオファーが来ているということです。

鈴木 日本では2002年から短期騎手免許で騎乗されていますが、当時と今で日本の競馬はどのように変わりましたか。

ルメール 馬のレベルは上がりましたね。2002年の頃はサンデーサイレンスの仔が強かったんですけど、そのあとディーピンパクトが種牡馬になって、さらに馬の走りが軽くなって、速い脚を使えるようになったと思います。

鈴木 続いて川田騎手にお伺いします。早くからリーディングというタイトルには強い思いをお持ちだった印象ですが、いかがですか。

川田 幼い頃からジョッキーになりたい、なってからはリーディングを取りたいと、ずっと言い続けていました。お二人を前に言うのもなんですが、この10年は地方や外国から来た騎手にJRAのリーディングを取られている状況だったので、JRAの生え抜きとして、取り返さないといけないという責任を勝手に背負っていました。

鈴木 以前、川田騎手はルメール騎手のことを、ライバルなのに、いい人すぎて敵対心を持ってない、とおっしゃっていましたね。

川田 僕自身がこんなきつい性格ですし、もっと敵対視すればいいのにと自分でも思うんですけど（笑）。ルメールさんも戸崎さんも、これだけ優しくていい方なので、ちょっと楽しく交流しすぎていますね。

鈴木 2度の3位、4度の2位を経て、ついに2022年にリーディングジョッキーになられたときは、どんなお気持ちでしたか。

川田 まずは、ほっとしました。勝手に背負ってきたこの荷物を下ろせる、と思いましたね。JRA生え抜きの僕が取れたことは、若い騎手たちにとっても大きな意味があったと思います。

鈴木 その2022年の川田騎手は、リーディングだけでなく騎手大賞（勝利数、勝率、獲得賞金の全てでトップ）も受賞されました。

川田 一つひとつは僕のキャリアハイではないんですが、この年は全部取れそうだったので、シーズンの最後はそれらの数字も意識していました。

鈴木 皆さんに伺いたいのですが、ジョッキーにとって、リーディングというタイトルはどういった価値を持っているのでしょうか。

戸崎 リーディングジョッキーが騎手のトップという位置づけなので、やっている以上は目指していくもの、目標なんだと思います。

ルメール 戸崎さんが言うように、リーディングジョッキーは世界の競馬関係者から、その国でいちばん上手なジョッキーとして見られます。各国のジョッキーズシリーズのような競走にも呼んでもらえますし、他の国で騎乗できる機会も増えます。

川田 誰しもがジョッキーになるときは、リーディングを取りたいと思ってデビューするものだと思います。そこから勝てる人、勝てない人の差が生まれますし、全く届かずに終わる人の方が圧倒的に多い世界ですが、だからこそリーディングジョッキーというものは、ともにレースに乗る仲間たちにとって非常に重いものだと思います。

現在の中央競馬 —海外での活躍—

鈴木 ここからは、この10年の中央競馬の変化についてお話を伺います。まず目立つのは、世界の大レースでの日本馬の活躍ではないでしょうか。

ルメール 馬の能力が上がったのはもちろんですけど、関係者が経験を積んで、どの馬がどの競馬場に合うのかわかってきたことも大きいと思います。

鈴木 ルメール騎手はアーモンドアイやイクイノックスでドバイの大レースを勝たれましたが、2頭をご覧になった海外の関係者の反応はいかがでしたか。

ルメール 能力の高さにみんな驚いていました。日本馬を負かすのはすごく難しいので、今はもうみんな日本馬が海外に来るのを恐れています。

鈴木 川田騎手もブリーダーズカップやドバイワールドカップなどを勝たれていますが、海外の大レースに日本の騎手として騎乗することには、やはり特別な思いがとおありですか。

川田 それはすごくあります。日本馬が海外へ行くたび現地の騎手に乗り替わるような状況は、何とか変えていきたいとずっと思っていましたから。

鈴木 2021年にはブリーダーズカップフィリー&メアターフをラヴズオンリーユーで勝利するという、歴史に残る快挙を成し遂げられました。

川田 非常に誇らしい時間でした。アメリカは遠い分、チャレンジが難しいですが、あの年は比較的、遠征しやすい西海岸ということもあり、日本の人馬がブリーダーズカップを勝てるまでできたことを証明できました。



【2021年マイルチャンピオンシップ優勝】グランアレグリア×クリストフ・ルメール

CHRISTOPHE LEMAIRE

海外主要レースでの活躍も近年目立つ。2023年にはルメール騎手とのタッグでドバイシーマクラシックを圧勝したイクイノックスが、世界No.1の評価を得た



鈴木 なぜここまで日本馬は強くなることができたのでしょうか。

川田 いちばんは生産だと思います。その上で育成、調教でも格段に進歩し、その馬の能力を発揮できる作りになった。騎手も短期免許の外国人騎手と競うことでレベルが上がって、強くなった馬の能力を引き出せるようになった、ということだと思います。

鈴木 施設面などでは、日本はどんな部分が海外と比べて優れていますか。

川田 全てにおいて圧倒的に優れていると思います。これだけきっちりと管理された環境で競馬ができることは、本当にありがたいと思っています。

鈴木 一方、日本競馬の悲願ともいえる凱旋門賞は、まだ勝っていません。あと、何が足りないのでしょうか。

川田 ほとんどの国で素晴らしい走りが出ていますし、むしろ今は日本で勝つことの方が難しいくらいで、日本で戦うより勝てる可能性があるから海外へ行く馬もいるのが実情です。ただ凱旋門賞に関しては、ヨーロッパの競馬と日本の競馬では必要とされる能力が違いすぎて、僕は違う競技だと捉えているくらい別物だと思っています。

鈴木 そのヨーロッパで勝つためには、例えば長期でじっくり遠征した方がよいのでしょうか。

ルメール そんなことはないと思います。ドバイや香港などにはレース10日前に行き結果を出していますし、ヨーロッパも同じです。あとは馬のコンディションをどう上げるのかという準備や調整の部分だけだと思います。

鈴木 リーディングを狙うジョッキーの方には、海外に乗りに行くこと、その間、日本で勝ち鞍が伸ばせないという悩みはあるのでしょうか。

ルメール 僕にとっては考える余地はなくて、海外のレースを選びます。

川田 僕もです。海外遠征も含めての1年なので、その結果としてリーディングがどうなるかという思いです。

戸崎 海外で乗れるチャンスは少ないですからね。僕も依頼があるならば、そっちに乗ると思います。

母国のフランスで取れなかった
リーディングのタイトルを
日本で取ることができて、
すごく嬉しかったです

2017~2021・2023年
リーディングジョッキー
クリストフ・ルメール

PROFILE

1979年5月20日、フランス生まれ。99年にフランスで騎手デビュー。2005年に有馬記念をハーツクライで制し、JRA・G I初制覇を果たす。15年にJRAに移籍すると、17~21年、23年とリーディングジョッキーに6度輝く。その他にもJRA賞の個人部門では、騎手大賞を1回、JRA最高勝率騎手を3回、JRA最多賞金獲得騎手を7回、MVJを5回獲得している。JRA通算成績は8653戦1888勝、うちG I (Jpn I) ・51勝を含め重賞150勝 (24年7月28日終了時点)。



現在の中央競馬 —若手騎手の活躍—

鈴木 ジョッキー界の変化に目を向けますと、近年は特に若手ジョッキーの活躍が目立っていると感じます。

戸崎 確かに若手のレベルは高くなっていると感じます。よく勉強していますよね。僕の若い頃は、ただがむしゃらに乗りながら学ぶという感じだったんですが。あとはトレーニングのレベルも高くなっていると感じます。

鈴木 こうした若手の活躍にはどんな背景があるのでしょうか。

川田 今だけではなく、どの時代も活躍する若手は必ずいます。ただ今は映像が簡単に手に入る時代というのは大きいと思います。いつでもレース映像、パトロール映像を確認できますから。海外の情報も簡単に手に入ります。

鈴木 ルメールさんは日本の若いジョッキーを見て、どのようにお感じですか。

ルメール 最近は海外のレベルの高いジョッキーがたくさん来日するようになりましたが、自分でも海外で騎乗すればいい経験になると思います。そういう意味では川田さんはとてもいいお手本だと思います。フランスに数カ月滞在して海外競馬を経験し、リーディングジョッキーにもなって、世界の大きなレースに騎乗して活躍しています。日本の若いジョッキーたちも見習うといいと思います。実際、坂井瑠星騎手は同じように海外経験をして今活躍しています。

鈴木 川田さんから、若手に何かアドバイスはありますか。

川田 ありません。必要なことはもう本人たちが考えてやっていますし、その中で頑張った人間が上がって来ますから。より技術を習得しやすい時代ですから、より上手くなるのは当然で、そうやって先人を抜いていくのも後輩の役目です。そうすることが業界の発展に繋がります。

現在の中央競馬 —ダート界の変化—

鈴木 大井競馬で3歳ダート三冠競走が始まるなど、ダートの世界にはまさに今、大きな変化が起きています。川田騎手は一冠目の羽田盃をアマンテビアンコで勝たれましたが、この流れについてどう思われていますか。

川田 JRAの番組がダート競走になかなか手が回らない部分を、地方競馬が引き受けることで番組が充実し、競馬ファンの楽しみが増え、地方競馬の売り上げも上がり、みんなにとってすごくいい流れだと思っています。

鈴木 大井競馬ご出身の戸崎騎手は、どのように感じていらっしゃいますか。

戸崎 大井の関係者からは、強いJRAの馬と戦うということで厳しくするという危機感とともに、それを負かしてやろうというモチ

ベーションを感じます。そうやって地方競馬側の意識が高まるのはいいことだと思います。

鈴木 ルメール騎手はいかがですか。

ルメール ダート向きの若い馬がいい経験を積む場ができたのは、とてもいいことだと思います。競争はレベルを高めてくれるので、今年、フォーエバーヤングがケンタッキーダービーで3着に好走したように、これからどんどん結果が出てくるのではと思います。



【2022年阪神ジュベナイルフィリーズ優勝】リパティアランド×川田将雅



2024年から大井競馬で3歳ダート三冠競走がスタート。一冠目の羽田盃は1番人気に応じて川田騎手がアマンテビアンコで制した

YUGA KAWADA

JRA生え抜きの僕が

リーディングを取れたことは、

若い騎手たちにとっても

大きな意味があったと思います

2022年
リーディングジョッキー
かわだ ゆうが
川田 将雅

PROFILE

1985年10月15日生まれ、佐賀県出身。2004年に栗東・安田隆行厩舎所属としてデビュー。08年に皐月賞をキャプテントゥーレで制し、G I (Jpn I) 初制覇。22年にはJRAの生え抜き騎手としては9年ぶりとなるリーディングジョッキーのタイトルを獲得した。その他にもJRA賞の個人部門では、騎手大賞を1回、JRA最高勝率騎手を7回、JRA最多賞金獲得騎手を1回獲得。24年は2月11日東京第12RでJRA通算2000勝を達成した。JRA通算成績は12387戦2064勝、うちG I (Jpn I) ・27勝を含め重賞136勝 (24年7月28日終了時点)。



現在の中央競馬 —ファンの変化—

鈴木 競馬ファンも、この10年でずいぶん変わりました。今、競馬場には若いファンがとて増えています、実際にそれを感じられますか。

戸崎 感じますね。昔とはかなり違ってきていると思います。

川田 その分、オールドファンの皆さんの居心地が悪くなったりしないようにしてほしいというのは、個人的に願っていることです。入場券を事前に予約購入する新しいシステムなど、お年寄りには難しい。今後も幅広くいろいろな世代の方楽しんでいただける空間であり続けてほしいと思います。

鈴木 海外の競馬場では大レースの日はまるで社交場のようですが、ルメール騎手からご覧になって、海外と日本の競馬場の雰囲気はどう違いますか。

ルメール 酔っ払っている人がいないのは日本の競馬場の特徴だと思います(笑)。いちばん違うのは女性ファンの多さです。JRAには今後も若い世代や女性へのプロモーションは、ぜひ続けていってほしいですね。

鈴木 海外の関係者の方は、スタート前の大歓声など、日本のファンの盛り上がりには驚かれるとよく耳にします。

ルメール ジョッキーも、スタンド前のスタートで聞く歓声は感動しますよ。ダービー、オークス、ジャパンカップ、宝塚記念。いつも興奮します。

鈴木 最近は川田騎手たちがおっしゃってくださって、スタートの瞬間は静かにすることが定着しましたね。

川田 コロナ禍以前は定着していた観戦マナーでした。ファンファーレで盛り上がるのは日本の素晴らしい文化ですし、一度盛り上がった後、ゲートが切れる直前は、陸上競技と同じようにみんなで固唾をのんで見守っていただき、ゲートが開いた後は思いきり楽しんでいただけたら。競馬を安全に行うために、スタートはすごく大事です。そう思って、お伝えしました。

未来への提言

鈴木 最後に、今後、中央競馬はどうなっていくべきかをお聞かせください。

川田 これまでと変わらず、まっとうな競馬を提供していくことがいちばんで、そのために僕らジョッキーができるのは、いいレースを組み立ててお客様に喜んでいただくことだと思います。

戸崎 ファンに納得していただけるレースを繰り広げるのが、ジョッキーの仕事ですから。あとは、やっぱり強い馬が出れば盛り上がるというのは感じますので、そういう馬をレースを通じて作っていきなさいと思います。

ルメール 日本の競馬とそのシステムはとても素晴らしいと思いま



大観衆の注目を浴びる日本の競馬。3人のジョッキーもさらに魅力的な場面を届けたいと意気込む(写真は戸崎騎手がジャスティンミラノで制した、2024年皐月賞)

す。あとはサッカーやバスケットボール、野球などに負けないよう、さらに若い人に魅力を感じてもらえるものにしていきたいですね。

鈴木 ジョッキーの皆さん同士では、そういうお話はされるのですか。

戸崎 僕らが話すのは競馬場のコースや馬場の話が多いですね。より馬が走りやすく、ジョッキーが乗りやすいものにするにはという内容です。

鈴木 今後、さらに競馬人気を高めることはできるでしょうか。

川田 競馬のテレビ中継が馬券ばかりになってることは残念に思います。馬という生き物がどれほど大変な日々を過ごし、レースで感動を与えてくれているか、もっと正しく伝えてくれたらなと思います。

ルメール 競馬場がもっとそういう物語をアピールする場所として使われたいですね。僕は初めて野球の試合を観に行ったとき、試合時間がとても長いのに、チェンジの間にエンターテインメントがたくさんあって、退屈せずに楽しめたことがとても印象的でした。そんなふうに競馬場ももっと魅力的な場所になってほしいです。

戸崎 じゃあ将雅が昼休みとかレースの合間に踊るといのはどうですか。

川田 ……面白くないですよ(笑)。

鈴木 いいですね! 戸崎さんもごいっしょにいかがですか。

戸崎 いや、遠慮します(笑)。

自身の10年後

鈴木 70周年を迎えたJRAは次の10年へと向かいますが、皆さんの10年後の目標を、ぜひ教えてください。

川田 若くもないこの3人をつかまえて10年後ですか(笑)。

鈴木 でも今年は横山典弘騎手の56歳での日本ダービー制覇もありましたし、皆さんも10年後のご活躍のことを想像なさいませ

か。戸崎さんは53歳になられています。

戸崎 正直、考えていないですね。ひとつひとつ丁寧に積み重ねていって、少しでも長くジョッキーを続けられたらいいなというだけです。体が資本なので健康面や体調面には昔より気を遣っていますが、10年後、乗れる体でも、騎乗機会がどうかはわかりませんし。

鈴木 川田騎手はいかがですか。10年後は48歳です。

川田 僕も全く考えてないです。若い頃は上を目指す中で先々のことはもちろん考えましたが、今はもう終わりの方が圧倒的に近いわけです。終わりのことを考えるより、今与えられているこの時間を大事にしたいという気持ちです。

鈴木 10年後もジョッキーでいたいという気持ちはおありですか。

川田 それも、そのときにどうなっているかです。戸崎さんがおっしゃるように僕らはアスリートですから。僕ももう40歳を前にして肉体的には衰えてきていますし、あとはどれだけ維持できるかというところですから。

鈴木 ルメール騎手は10年後、いかがでしょうか。55歳です。

ルメール いつまで乗っているかはわかりませんが、さすがに10年後は引退しているのではと思います(笑)。柴田善臣さん、横山典弘さん、武豊さんといった人たちは、本当に特別なアスリートです。40歳を超えたら、普通は誰でも引退が見えてくるものです。

戸崎 ルメールさんなら20年後でも大丈夫ですよ。

ルメール できるでしょうか(笑)。日本とフランスの2カ国でキャ

リアを続けてきて、エネルギーをかなり消耗しました。何度か怪我もしていますし。ただジョッキーをやめたあとも、競馬の世界には携わっていきなさいと思っています。アンバサダーなどの立場で、競馬をアピールしていきなさいです。

川田 なるほど、クリストフはJRAのアンバサダーね(笑)。

戸崎 売り込みですね(笑)。

鈴木 皆さん、きっと10年後もジョッキーでいてくださると期待しています。でなければアンバサダーを務めてくださっていると思うので、いずれにしても楽しみにしたいと思っています(笑)。お三方のより一層のご活躍をお祈りしております。ありがとうございました。

クリストフ・ルメール × 戸崎圭太 × 川田将雅

座談会の“番外編”動画を
JRA公式YouTubeチャンネルで公開中!



右の二次元コード
からご覧ください



※動画は2025年1月以降、予告なく掲載を終了する場合がございます。



著名人が語る 思い出の馬 6

取材・構成：姫園 渡仁

杉本 清さん ・アナウンサー



profile
元関西テレビ所属のアナウンサー。競馬ファンから「杉本節」と呼ばれる軽妙な語りで、競馬実況にて多くの名台詞を残した。現在はJRA機関誌の『優駿』にて「杉本清の競馬談義」を連載している。

テンポイント

キザな言い方かもしれませんが、テンポイントと僕は見えない糸で結ばれていました。そんな馬は、テンポイントのほかにはいません。
1975年阪神3歳Sの「見てくれこの脚！これが関西の期待テンポイントだ！」、76年菊花賞の「それ行けテンポイント！ ムチなどいらぬ！ 押せ！」、77年天皇賞（春）の「これが夢に見た栄光のゴールだ！」、そして、普通なら実況をすることはない77年有馬記念の「あなたの、そして私の夢が走っています」。記憶に残るレースばかりですが、僕が一番印象にあるのは3歳の76年京都大賞典（3着）です。春まではかわいらしい栗毛

だったのに、秋には筋骨隆々の逞しい馬に成長していました。故障明けだったので「テンポイント3着、今日はこれで十分だ」と無意識に実況したのですが、ディレクターから「単勝を買っているファンもいるんですよ！」と注意が。でも視聴者からのクレームは一本もなし。ファンも僕と同じ気持ちだったのではないかと思います。



1977年有馬記念を制したテンポイントはこの年の年度代表馬に選ばれた

小林 薫さん ・俳優



profile
日本を代表する実力俳優。出演作は「Dr. コトー診療所」「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」「深夜食堂」など。2007・09年の阪神牝馬S(GII)を制したジョリーダンスを所有するなど、馬主としても活動している。

オグリキャップ

地方から成り上がってきて、中央入りしてからも連戦連勝、でもクラシックには出走できなくて……という物語性を背負った馬で、とても思い入れがあります。とくに印象に残っているのは、1989年秋に東京競馬場のパドックで見た姿です。上目遣いの血走った眼、気合が全面に出たツル首（長いクビをツルのように曲げている状態のこと）、「気持ちの昂った競走馬はこんな表情を見せるんだ」と思いました。そのジャパンCはホーリックスの2着に敗れるのですが、走破タイムは2分22秒2、とんでもないレコードタイムで、とても興奮しました。僕の中では、「走り」をもっとも表現できる馬といえば、オ

グリキャップです。
90年秋になると、天皇賞（秋）6着、ジャパンC 11着と惨敗するのですが、ラストレースの有馬記念で勝つ。「事実は小説よりも奇なり」という言葉がありますけど、オグリ自身が様々な種類の物語を紡いでいった感もあります。人生の物語には色があると思うんですけど、各々の競馬ファンの人生を鏡に映したような、惹きつけ方をした馬でした。



1989年ジャパンCで惜しくもホーリックスの2着に敗れたオグリキャップ（手前）

DAIGOさん ・ミュージシャン



profile
ミュージシャンやタレントとして幅広く活躍する。所属する3人組ロックバンド「BREAKERZ」ではボーカルを務める。フジテレビ系の「みんなのKEIBA」では、MCとして出演中。他にもバラエティや舞台など幅広い分野で活躍している。

トウカイテイオー

父シンボリルドルフと同じように無敗でダービーを勝ったのがとにかく衝撃でした。このまま無敗の三冠馬になるかというところで骨折。メジロマックインとの空前絶後の二強対決になった1992年天皇賞（春）でも負けてしまい、レース後には2度目の骨折が判明して、すごくショックだったんですけど、その年の秋のジャパンCで復活をするんですよ！ 当時は本当に外国馬が強くて、この年は欧州最強牝馬のユーザーフレンドリーや豪ダービー馬のナチュラルズムを負かしたので、やっぱり凄いなってなりますよね。でもその後3度目の骨折。「もうダメだ」と誰もが思うじゃないで

すか。でも93年の有馬記念、1年ぶりのレースで復活勝利をあげるんです！ 感動して涙しましたし、今見ても痺れるし鳥肌が立ちますよ。

ボクにとって特別な馬で「奇跡は起こる」ということを教えてくれました。音楽や人生で壁にぶち当たっても、トウカイテイオーのレースを見ると奮い立たされる。FTOですね、「不屈（F）のテイ（T）オー（O）」。



1993年有馬記念で奇跡の復活を遂げたトウカイテイオー

川島 明さん ・お笑い芸人



profile
吉本興業所属のお笑い芸人。お笑いコンビ・麒麟のボケ、ネタ作りを担当。TBSの情報バラエティ番組「ラヴィット！」にてメインMCを務める。関西テレビの「ウダ馬なし」で競馬について熱く語る。

ヒシアマゾン

親戚のおっちゃんに初めて競馬場に連れてってもらったのが1994年のエリザベス女王杯で、ヒシアマゾンのパドックを踏みしめる姿に一目惚れしました。レースもチョウカイキャロルとアグネスバレードの追い比べを大外から差し切る名勝負。そこから大好きになりました。次走の有馬記念も痺れましたね。3歳牝馬が有馬記念で上位に来るイメージが薄い時代で、牡馬と牝馬や古馬と3歳の能力差も今よりあったのですが、ナリタブライアの2着に入り3歳馬でワンツーフイニッシュを決めた。めちゃくちゃよかった。
末脚勝負のアマゾンのレースは自分の考え方

にも影響を与えていて、人生でダメだなという時期があっても「今は中国にいるんだ」と思えるし、調子が良くても「タメを利かせないとダメだ」と注意するようになっていきます。30年前のエリザベス女王杯のレーシングプログラムは今でも大切に保管していて、たまに見返しています。好きな馬はたくさんいますが、ヒシアマゾンは初恋の人というか、いまだに超えられる馬はいません。



1994年エリザベス女王杯で、大外から差し切ったヒシアマゾン

渡辺 明さん ・棋士



profile
永世竜王、永世棋王の資格を保持している将棋棋士。2000年、中学3年時に15歳でプロデビュー。04年に竜王位を20歳の若さで獲得した。競馬場でのイベントに度々出演しており、競馬にも深い知見を持っている。

ディープインパクト

新馬戦（2004年12月19日）からすでに話題になっていましたが、2戦目の若駒Sの勝ち方がとにかく凄かった。4コーナーでは届きそうにない位置にいたのに、直線半ばで前を捕まえると、あとは馬なりで5馬身差の完勝。それまでにリアルタイムで三冠馬を観たことはなかったのですが、「こういう馬が三冠馬になるんだろうな」と圧倒的な強さに心を惹かれました。日本ダービーをあれだけ簡単に勝つ馬はそういないし、引退レースの有馬記念も4コーナーで勝負付けが済んだような、自分が想像した以上の楽勝でした。実際、まだまだ走れたんだろうなと思います。ディープイン

パクトのDVDを買って、何度も観ましたね。

ディープインパクトがデビューしたのは、自分が20歳で、ちょうど初タイトル（竜王位、04年12月28日）を獲得したときでした。当時の将棋の世界は「20歳ではまだ完成せず、20代後半にかけてピークを迎える」という認識だったので、自分もディープインパクトのような圧倒的な強さを身に付けたいと憧れていたのを思い出します。



引退レースとなった2006年有馬記念を制したディープインパクト

田中 将大さん ・プロ野球選手



profile
東北楽天ゴールデンイーグルス所属の投手。2013年にシーズン無敗の24連勝を記録し、エースとしてチームを日本一に導いた。この年に有馬記念の表彰式プレゼンターを務めた他、メディアでレース予想を披露している。

オルフェーヴル

子供のころから競馬のゲームが好きで、プロ野球の世界に入ってから先輩たちに携帯電話で馬券が買えることを教えてもらい、競馬を楽しんでいました。初めて競馬場を訪れたのは、プレゼンターを務めた2013年の有馬記念です。競馬場はすごく広くて、綺麗な空間だと感じましたね。オルフェーヴルの引退レースと聞いていたのですが、僕は「引退するんですよ」と思い、他の馬を本命にしていました。するとオルフェーヴルが2着馬を8馬身もぶっちぎるパフォーマンスで、本当に衝撃的でした。「こんなに強いのに引退するんだ」と、今でも強烈に印象に残っています。

競馬を観るようになって10年以上が経ち、知っている馬が血統表に入っているのを見るのも楽しいですね。オフシーズンにタイミングが合えば競馬場に行きますが、その時は朝一に到着して、1レースから馬券を買うように態勢を整えるのがルーティンです。適性、展開、馬場、自分が信じる点を組み立てて予想し、生でレースを観て、答え合わせをするのが競馬の魅力だと思います。



2013年有馬記念で有終の美を飾ったオルフェーヴル

坂井瑠星 × 藤田菜七子 × 岩田望来 × 菅原明良 × 永島まなみ

描く、将来へのビジョン

20代のジョッキー5人が集結し、自身の思い出や今後の目標、他のメンバーとのエピソードなどを語り合う。

進行・構成：不破由妃子／撮影：桂伸也 ※この座談会は、2024年6月17日に収録したものです。



Mirai Iwata

Nanako Fujita

Ryusei Sakai

Manami Nagashima

Akira Sugawara

レースで若手が活躍すると 騎手同士でもすごく盛り上がる

—今日は、競馬界の未来を担う5名の騎手にお集まりいただきました。同じ20代として普段から交流はありますか？

坂井 今日集まった5人は、普段からけっこう話をするメンバーです。僕でいうと、菜七子とは同期なのでもちろん交流はありますし、明良とは子供の頃、同じ乗馬クラブに通っていたこともあって古い仲です。最近は望来ともよく馬の話をしますし、まなみとも喋る機会が多くて。まなみて、こう見えてけっこう面白いんですよ。

永島 やめてください(笑)。私はいつだって真面目です！でも、最近は本当に瑠星さんにお世話になっていて。よくアドバイスをくださいますし、活躍されている姿を近くで見ている、少しでも近づきたいないつも思っています。

菅原 僕も尊敬している先輩と言えば瑠星さんです。

坂井 ホントに？ 俺、無理やり言わせてないよね？(笑)

菅原 本当ですって！ ここ数年、海外ですごく活躍されているじゃないですか。僕はもともと海外のジョッキーの乗り方に憧れがあって、昔から海外のレース映像をたくさん見ていたので、そういう舞台で活躍されている瑠星さんの姿を見て、素晴らしいな、カッコいいなって本当に思っているんです。ここに至るまでに、一体どれだけ努力をされたのか…。「僕も瑠星さんのようになりたい」と軽々しく言えないくらいです。最近は、望来にも勝ち星でだいぶ差をつけられているしなあ…。

岩田 なに言ってるの(笑)。

菅原 いやいや、遠い存在になりつつあるよ。

—同期の活躍は複雑ですか？ それとも素直に喜べますか？

菅原 同期が重賞で人気馬に乗っていたりすると、勝ってほしいなと思っちゃいます(笑)。

Ryusei Sakai 坂井 瑠星

profile

さかい・りゅうせい／1997年5月31日生まれ、東京都出身。2016年3月に栗東・矢作芳人厩舎所属としてデビューし、同年4月に初勝利。22年秋華賞をスタンングローズで制し、GI初制覇。昨年はレモンポップとのコンビでJRA・GI2勝を挙げた。JRA通算成績は4805戦471勝、うちGI・5勝を含め重賞17勝(24年7月28日終了時点)。



岩田 わかる。同期が勝ったとき、少し時間が経てば「おめでとう」と言えるんだけど、レース直後はどうしても悔しさのほうを上回ってしまって、なかなか「おめでとう」が言えない…。

—勝負の世界ならではのですね。瑠星騎手は同期や後輩の活躍というのは、ご自身のメンタルにどう影響していますか？

坂井 本当に上手な後輩が多いので、常に「負けてられない」という気持ちにさせられますね。それと同時に、自分が引張っていかなければいけないという意識もあります。最近、現場にいて思うのですが、若手が活躍するとすごく盛り上がるんですよ。まなみがマーメイドSを勝ったときも、まるでGIかのような盛り上がりでしたから。刺激になると同時に、すごくいい流れだなと思いますし、今後はそういう機会がもっと増えていったらいいなと思いますね。



Nanako Fujita 藤田 菜七子

profile

ふじた・ななこ／1997年8月9日生まれ、茨城県出身。2016年3月に美浦・根本康広厩舎所属としてデビューし、同年4月に初勝利。18年にはJRA女性騎手最多勝利記録を更新した。19年にはコパノキッキングに騎乗し、JRA女性騎手初となるGI騎乗と重賞制覇を達成。JRA通算成績は3852戦165勝、うち重賞1勝(24年7月28日終了時点)。

—菜七子騎手、望来騎手、瑠星騎手にとって、お世話になっている先輩や尊敬している先輩ということ？

藤田 私は川田(将雅)さんですね。いつも気に掛けてくださっていて、同じ競馬場で乗るときは、木馬での姿勢を見てくださったり、レースのことや騎乗技術についてもいろいろと教えていただいています。

岩田 僕が憧れているのは、やはり父親(岩田康誠騎手)です。ジョッキーになる前、父は直感で乗っているのかなと思っていたのですが、こうして自分が6年目になって思うのは、父はものすごい数の騎乗技術の引き出しを持っているということ。内

から捌いてきたりなど競馬の内容も父特有のものがあるので、僕も父を目標に引き出しを増やしていきたいと思っています。

坂井 僕は特定の誰かを目標にしているわけではなくて、日本も含めて各国のビッグレースでもいつも乗っている騎手、そういう存在になることが目標です。たとえば、R・ムーア騎手だったり、L・デットーリ騎手だったり。世界の競馬界において、そういう存在になりたいと思っています。



坂井 瑠星の思い出の騎乗馬
スタンングローズ(写真：2022年秋華賞)

転機になった馬と 今後の目標を語る

—競馬の魅力といえば、やはり人と馬がともに挑む競技であることだと思いますが、皆さんにとって「あの馬がいたから」と思うような、転機になった馬はいますか？

藤田 転機をもたらしてくれたなと思うのはコパノアラジンです。デビュー2年目の春に新潟と東京で2連勝することができたんですけど、それをきっかけにコバさん(小林祥晃氏)の馬に乗せていただけるようになって、その流れでコパノキッキングと出会えました。キッキングには重賞(2019年カペラス)を勝たせてもらって、GIにも連れていってもらって。アラジンにもキッキングにも感謝しかありません。



藤田 菜七子の思い出の騎乗馬
コパノアラジン(写真：2017年5月27日東京第12R・4歳以上1000万下)

Mirai Iwata
岩田 望来

profile
いわた・みらい／2000年5月31日
生まれ、兵庫県出身。19年3月に栗
東・藤原英昭厩舎所属としてデ
ビューし、同月に初勝利。22年には
京都牝馬Sをロータスランドで制し
て重賞初制覇を達成。23年5月よ
りフリー。同年は113勝を挙げて優
秀騎手賞5位に入る。JRA通算成
績は4308戦469勝、うち重賞10勝
(24年7月28日終了時点)。



永島 菜七子さんとコパノキッキングのレースは、競馬学校時
代に見ていました。当時から「菜七子さんのようになりたい!」
と思っていたので、すごくよく覚えていますし、私も頑張ろうと
思いました。

藤田 ありがとう。私のあとにまなみちゃんたちが入ってきてく
れたことで、気持ちの面ですごく楽になったよ。まなみちゃんに
とって転機になったと思える馬は?

永島 2022年の秋に新潟の直線1000mで勝ったセルレアで
す。1枠1番からの競馬で……。

——あれは強烈でしたね。外ラチ沿いに馬が集まる中、ただ1
頭、内ラチ沿いに進路を取って、そのまま逃げ切ってしまった。

永島 はい。あのレースをきっかけに、いろいろなことが少しず
つ変わってきた実感があります。

坂井 わかる気がする。ひとつのレースをきっかけに、周りの自
分を見る目が変わったりするから。そういう意味では、僕はやっぱ
りスタンングローズかな。GI(2022年・秋華賞)を勝てたことで
自信になったし、何より周りからの見られ方が変わった。

菅原 やっぱりそうですよね。僕も今年はGIを勝ちたいなあ
(注:この収録の直後、ブローザホーンで宝塚記念を勝利)。

坂井 明良はカラテと出会って存在感が変わったような印象
があるよ。

菅原 そうですね。少しは名前が売れたかなと(笑)。1頭1
頭、1勝1勝が大事なのももちろんなのですが、やはり初めて重



Akira Sugawara
菅原 明良

profile
すがわら・あきら／2001年3月12日
生まれ、千葉県出身。19年3月に美
浦・高木登厩舎所属としてデビ
ューし、同年4月に初勝利。21年に東京
新聞杯をカラテで勝利し、重賞初
制覇。24年は宝塚記念をブローザ
ホーンとのコンビで勝利し、GI初
制覇。JRA通算成績は4087戦
315勝、うちGI・1勝を含め重賞10
勝(24年7月28日終了時点)。

賞(2021年・東京新聞杯)を勝たせてくれたカラテは、僕に
とって転機となった1頭です。望来はロータスランド(2022年・
京都牝馬S)?

岩田 ロータスランドもすごく大きな存在だけど、転機という
か、自信をもらったなと思うのは、2019年のウェルカムSを
勝ったヴァンドギャルドかな。

菅原 2019年ということは、俺たちがデビューした年か。

岩田 うん。ジャパンCのひとつ前のレースで、乗っているジョッ
キーたちがすごいメンバーだったんだよ。



岩田 望来の思い出の騎乗馬
ヴァンドギャルド(写真:2019年ウェルカムS)

——R.ムーア、L.デットーリ、C.スミヨン、W.ビュイック、O.マー
フィーなどなど、錚々たるメンバーが顔をそろえたレースでした
ね。そんななか、1年目のジョッキーが1番人気に代えて勝利し
た。これ以上ないアピールになりましたよね。

岩田 乗せてくださった関係者の方には感謝しかないですし、
そこで勝てたというのが何よりの自信になりました。

——そういった転機を生かして、ジョッキーとして確実に歩を
進めているのがここにいる皆さん。ぜひ今後の目標を教えてください。

藤田 私の場合、未来像があまり想像できないまま、目の前のこ
とに集中していたらいつの間にか8年経っていたという感じなの



菅原 明良の思い出の騎乗馬
カラテ(写真:2021年東京新聞杯)

Manami Nagashima
永島 まなみ

profile
ながしま・まなみ／2002年10月27
日生まれ、兵庫県出身。21年3月に
栗東・高橋康之厩舎所属としてデ
ビューし、同月に初勝利。23年には
第1回福島開催リーディングを獲得
するなどの活躍で、50勝を挙げた。
24年はマーメイドSをアリスヴェリテ
で勝利し、重賞初制覇。JRA通算
成績は1743戦103勝、うち重賞1勝
(24年7月28日終了時点)。



永島 まなみの思い出の騎乗馬
セルレア(写真:2022年10月16日新潟第7R・3歳以上1勝クラス)

で、これからも明確な目標は立てずに、とにかく目の前のことに
全力で取り組むというスタンスは変わらないと思っています。

永島 私も具体的な目標はあまり立てないのですが、昨年の
数字を上回れるようにと思っています。あとは、昨年初めてGI
に騎乗する機会をいただいて、今年は重賞も勝つことができま
したが、そういう経験をさせてもらった分、本当にまだまだだ
なあという思いがどんどん強くなっているのも、もっと細かな技
術を磨いて、大きな舞台でも先輩方と渡り合えるようになるの
が今の目標ですね。

菅原 先ほど瑠星さんが「スタンングローズでGIを勝ったこと
で、周りからの見られ方が変わった」とおっしゃっているのを聞
いて、GIを勝ちたいという気持ちがより強くなりました。もっと
もっと上を目指したいです。

岩田 僕もやっぱりGIを勝ちたいです。昨年、あと一步のとこ
ろまで行ってダメだったので、今年はその経験を活かしたい。

坂井 僕は毎年、勝ち鞍、勝率、連対率など、全ての数字で前
の年を上回ることをずっと目標にしています。あと、今年は海外
で悔しい思いをたくさんしたので、海外の大舞台で勝つことも
目標にしていきたい。ケンタッキーダービー(フォーエバーヤ
ングで3着)は、あそこまでいったら勝たなきゃいけないです
し、勝ち切れるジョッキーになりたいです。

——これからはリーディング争いを含めて、世代交代も視野

に、というところでしょうか。

坂井 はい。世代交代はひとりではできませんから、望来とは
そういう話もしてますよ。

岩田 トップを狙わないと、この世界に入ってきた意味があり
ませんから。若手みんなで分厚い壁を倒しに行って、そのなか
で自分が一番になれたら最高ですね。

——では、最後になりますが、将来ジョッキーを目指す子供た
ちがもっともっと増えるよう、今皆さんが感じているジョッキー
という仕事の魅力を伝えてください。

坂井 1頭の馬に本当に多くの人が携わっているなか、最後の
バトンを託されるのがジョッキーという仕事です。そのぶん、プレ
ッシャーもありますが、ゴール板を1着で駆け抜けたときのあの
気持ちは、本当に得難いものがあります。

菅原 わかります。勝ったときのあの気持ち……。ちょっと言葉で
言い表せないほどのものがありますよね。

坂井 うん。こんなにやり甲斐のある仕事はほかにないと僕は
思うから、少しでもジョッキーという仕事に興味がある子供た
ちには、ぜひ目指してもらって、言葉にできない「あの感覚、を
味わってほしいなと思う。

藤田 つらいことや苦しいこともあるけど、1着でゴールを駆け
抜けたときは、すべてを忘れることができる。あの嬉しさは言
葉では上手く伝えられないので、もしジョッキーを目指そうと
思っている方がいたら、一緒に頑張ろうと言いたいです。

岩田 例えば18頭立てなら、17頭が負けるのが競馬なので、
そのなかを1着で駆け抜けている自分を想像しただけで気持ち
がいい(笑)。まさにジョッキーじゃないと味わえない感覚で
すよね。

永島 競馬は、馬と人間が力を合わせて作り上げていく世界で
あり、一緒に戦うなかでこちらの思いを伝えると、馬が応えてく
れたりするので、そこがすごく魅力的だなと思っています。知れ
ば知るほど奥が深い世界でもあるので、ひとりでも多くの人に
競馬と競走馬の魅力を知ってもらいたいです。



座談会の“番外編”動画を
JRA公式YouTubeチャンネルで公開中!

右の二次元コードからご覧ください
※動画は2025年1月以降、予告なく掲載を終了する場合がございます。



HERO IS COMING.

HEROがくれたもの

甦る、70年間の名馬、名シーン

人々に大きな感動を与え、記憶に刻まれたHEROたちの輝かしい蹄跡を5つのテーマに厳選し紹介します。

※この記事は、全国の競馬場で行った「JRA70周年記念展示～HEROがくれたもの～」を転載、加工したものです。

競馬ブームの立役者

ハイセイコー



STORY

地方の大井で6戦6勝。その全てが7馬身差以上の圧勝という「怪物」は、1973年、中央に移籍した。中央でも連勝街道を突き進み、弥生賞、スプリングステークスにつづき、皐月賞を勝ってクラシック制覇を遂げた。

次走のNHK杯も勝ち、通算成績は10戦全勝。地方出身の「怪物」が中央のエリートたちをなぎ倒す様は痛快で、日本中が熱狂した。圧倒的1番人気に支持された日本ダービーでは3着に敗れたが、ハイセイコーは愛されつづけた。オイルショックに見舞われた暗い時代に希望の光を灯すような馬だった。

競馬の枠を超えた国民的アイドルとなり、主戦の増沢末夫騎手が歌った「さらばハイセイコー」はオリコン上位のヒット曲に。現役中は「東京都ハイセイコー様」という宛名だけで年賀状が届いたこともあったという。

PROFILE

ハイセイコー (Haiseiko)

1970年3月6日生 牡 鹿毛
父：チャイナロツク 調教師：伊藤 正美(大井)→鈴木 勝太郎(東京)
母：ハイユウ(父：カリム) 生産牧場：武田牧場
馬主：ホームマンクラブ 通算成績：22戦13勝(うち地方6戦6勝)
獲得賞金：219,539,600円(地方含む)



① 1973年皐月賞を優勝したハイセイコーと増沢末夫騎手
② 増沢騎手が歌った「さらばハイセイコー」はオリコン上位のヒット曲に
③ 2001年にハイセイコーの功績を称える馬像が中山競馬場に建てられた

日本に希望の光を照らした快挙

ヴィクトワールピサ



STORY

かつてはトゥザヴィクトリーが2着と涙のみ、ホクトベガが不慮の事故で星になったドバイワールドカップ。その制覇は日本競馬の悲願とも言えたが、2011年3月26日、ミルコ・デムーロ騎手が手綱をとったヴィクトワールピサが日本馬として初めてこのレースを制した。2着はトランセンド。日本馬によるワンツーフイニッシュとなった。

序盤は後方に控え、流れが落ちついた向正面で一気に進出するという、デムーロ騎手の大胆な騎乗が光ったが、レース後、日の丸をかかげた鞍上の目には涙があった。この快挙が成し遂げられたのは、東日本大震災が発生してから僅か15日後のこと。日本から遠く離れた中東の地に「君が代」の調べが響いた。未曾有の大災害に見舞われた日本に希望の光を照らした、歴史的勝利となった。

PROFILE

ヴィクトワールピサ (Victoire Pisa)

2007年3月31日生 牡 黒鹿毛 調教師：角居 勝彦(栗東)
父：ネオユニヴァース 生産牧場：社台ファーム
母：ホワイトウォーターアフェア(父：Machiavellian) 通算成績：15戦8勝(うち海外3戦1勝)
馬主：市川 義美氏 獲得賞金：1,085,040,500円(海外含む)



① 2011年のドバイワールドカップは日本馬のワンツーフイニッシュに
② レース後、涙するM.デムーロ騎手
③ 2011年ドバイワールドカップ口取り。日本に希望を届ける勝利となった

名手の復活を象徴する運命の馬

キズナ



STORY

東日本大震災の発生からほどなく、2011年のドバイワールドカップにトランセンドを出走させた前田幸治オーナー(前田晋二氏の兄)は、現地では多くの人々から温かい言葉をかけられた。

それに感銘を受け、最も期待できる馬に、震災後しばしば使われるようになった「絆」という名をつけることにした。その名を授かったのがキズナだった。

目標はあくまでダービー。毎日杯を勝利した後、間隔が詰まった皐月賞を回避したキズナは、京都新聞杯から本番へ向かった。レースでは、4コーナーを回った段階ではかなり後方にいたが、武豊騎手の手綱に導かれ、直線一気でも他馬をこぼす抜き。エビファネイアを抑えて13年の日本ダービーを優勝した。怪我をきっかけにキャリアの中で唯一といえるいい成績不振に陥っていた武騎手は、この馬との運命的な出会いによって鮮やかな復活を遂げたのだ。

「僕は帰ってきました」。自身の日本ダービー最多勝記録を「5」に伸ばした武騎手がお立ち台でそう言うと、大きな拍手と歓声が沸き起こった。

PROFILE

キズナ (Kizuna)

2010年3月5日生 牡 青鹿毛 調教師：佐々木 晶三(栗東)
父：ディーブインパクト 生産牧場：(株)ノースヒルズ
母：キャットクイル(父：Storm Cat) 通算成績：14戦7勝(うち海外2戦1勝)
馬主：前田 晋二氏 獲得賞金：515,955,800円(海外含む)



① 直線一気の末脚でダービー馬となったキズナ
② 2013年日本ダービーに挑むキズナと武豊騎手
③ 大声援に応える武豊騎手

希望

歴史的シーンを
生み出したHERO

常識を覆した三冠馬

ミスターシービー



STORY

追い込む競馬を得意とする吉永正人騎手を背に、皐月賞と日本ダービーを後方一気の競馬で優勝。そしてシンザン以来の三冠制覇がかかった菊花賞では、さらに驚きの展開が待っていた。

ミスターシービーは最後方につけ、正面スタンド前を抜けて1、2コーナーを回って行く。そのまま勝負どころまで脚をためるのかと思いきや、向正面のなかほどで馬群の外に出て一気に進出。「ゆっくり上ってゆっくり下る」ことがセオリーと言われていた京都の3コーナーの坂を凄まじい勢いで上り、そして下って行った。

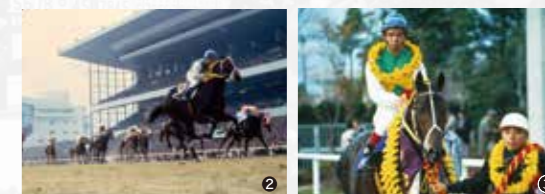
予期せぬ「奇襲」に場内は騒然となった。4コーナーで先頭に立ち、直線へ。普通に考えればそこで失速してもおかしくない展開だったが、さらに末脚を伸ばし、2着馬を3馬身突き放してフィニッシュ。史上3頭目の三冠馬となった。

PROFILE

ミスターシービー (Mr.C.B.)

1980年4月7日生 牡 黒鹿毛
父：トウシヨウボーイ
母：シービークイン(父：トビオ)
馬主：千明牧場

調教師：松山 康久(美浦)
生産牧場：千明牧場
通算成績：15戦8勝
獲得賞金：409,598,100円



- ① 3コーナーで最後方から一気に進出するミスターシービー (1983年菊花賞)
- ② ミスターシービーは2着を3馬身引き離して優勝
- ③ 三冠馬となったミスターシービーと鞍上の吉永正人騎手

世界を“驚かせた”豪脚

オルフェーヴル



STORY

派手な勝ち方で脚光を浴びる馬は多いが、2着となった走りで観衆を2度も驚かせたのはこの馬だけだろう。

1度目は、史上7頭目の三冠馬となった翌年、2012年の阪神大賞典。2周目の3コーナーで外に膨れるロスがあったものの、そこから立て直し猛然と追い込んで2着となった。

2度目はその年の凱旋門賞。直線で前をごぼう抜きにし、圧勝での日本競馬の悲願達成かと思われたが、ゴール前で内に切れ込んで失速し、2着に敗れた。どちらも桁違いの豪脚を披露したがゆえの「驚愕の2着」だった。父ステイゴールド譲りの気性の激しさが、末脚の驚異的な爆発力に転換されていたのだろう。

その突出した能力が勝利に向けて最大限に発揮されたのが、ラストランとなった13年の有馬記念だった。2着馬を8馬身突き放し、最後は勝って世界を驚かせた。「僕は今でもこの馬が世界一強いと思っています」。盟友・池添謙一騎手は相棒へ最大級の賛辞を贈った。

PROFILE

オルフェーヴル (Orfevre)

2008年5月14日生 牡 栗毛
父：ステイゴールド
母：オリエンタルアート(父：メジロマックイン)
馬主：(有)サンデーレーシング

調教師：池江 泰寿(栗東)
生産牧場：(有)社台コーポレーション白老ファーム
通算成績：21戦12勝(うち海外4戦2勝)
獲得賞金：1,576,213,000円(海外含む)



- ① 2012年阪神大賞典では道中で膨れるロスがありながら2着まで猛追する
- ② 2012年凱旋門賞で他馬をごぼう抜きし、リードを広げるオルフェーヴル
- ③ 引退レースとなった2013年有馬記念で2着馬を8馬身突き放した

牝馬三冠馬が衝撃の2分20秒6

アーモンドアイ



STORY

馬名の通りの、美しい目をした牝馬が、2018年の主役となった。桜花賞では前年の2歳女王を並ぶ間もなく差し切り、オークスでは道中掛かり気味になりながらも完勝。秋華賞でも力の違いを見せつけ、史上5頭目の牝馬三冠馬となった。

次走は対古馬初戦となった2018年ジャパンカップ。最内枠からスムーズに先行して折り合い、直線へ。逃げた馬を余裕たっぷりにかわし、先頭でゴールを駆け抜けた。勝ちタイムが表示されると、場内がどよめいた。2分20秒6。従来の記録を1秒5も短縮する、芝2400メートルの記録だった。クリストフ・フルメール騎手は「スピードも瞬発力もスタミナもある。皆が望むもの全てを持っている」と絶賛した。

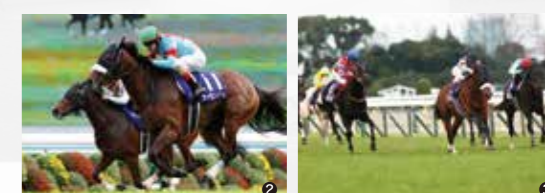
2年後の20年、引退レースとなったジャパンカップではコントレイル、デアリングタクトとの歴史的三冠馬対決を制し、JRA所属馬としては史上最多となる芝G19勝という大記録を樹立。美形のヒロインは、牝社の別を超越した名馬となった。

PROFILE

アーモンドアイ (Almond Eye)

2015年3月10日生 牝 鹿毛
父：ロードカナロア
母：フサイチパンドラ(父：サンデーサイレンス)
馬主：(有)シルクレーシング

調教師：国枝 栄(美浦)
生産牧場：ノーザンファーム
通算成績：15戦11勝(うち海外1戦1勝)
獲得賞金：1,915,263,900円(海外含む)



- ① 2分20秒6の驚愕の記録で2018年ジャパンカップを優勝
- ② 史上5頭目の牝馬三冠馬となったアーモンドアイ
- ③ 2020年ジャパンカップでは歴史的な三冠馬対決を制した

参
勇氣

その走りで感動を与えてくれたHERO

度重なる骨折を乗り越え奇跡の復活

トウカイトイオー



STORY

1991年、「皇帝」シンボリルドルフの初年度産駒として、圧倒的な強さで皐月賞と日本ダービーを制し、無敗の二冠馬に。しかし、レース後に骨折が判明。休養に入り、三冠制覇の懸かる菊花賞には出走できなかった。

翌92年の春に復帰したが、メジロマックイーンとの頂上決戦となった天皇賞(春)で5着に敗れたあと、再度骨折していることが明らかになった。復帰後は、秋2戦目のジャパンカップでナチュラルリズムとの競り合いを制しG13勝目をマークするも、続く有馬記念では人気に応えられず11着に終わる。そして5歳になった93年の春にも骨折が判明。3度目の骨折を克服し、復帰戦は93年の有馬記念となった。前年の同レース以来1年ぶりの実戦で、ファンの思いも半信半疑であった。しかし、トウカイトイオーはその常識を覆し鮮やかに差し切り、奇跡的な復活を遂げた。度重なる故障を乗り越えて勝利した不屈の姿に、涙を流して称えるファンもいた。中363日でのG1勝利は今なお最長記録となっている。

サラブレッドの持つ硝子のような繊細さと美しさを感じずにはいられない名馬であった。

PROFILE

トウカイトイオー (Tokai Teio)

1988年4月20日生 牡 鹿毛	調教師：松元 省一(栗東)
父：シンボリルドルフ	生産牧場：長浜牧場
母：トウカイナチュラル(父：ナイスダンサー)	通算成績：12戦9勝
馬主：内村 正則氏	獲得賞金：625,633,500円



- ① 圧倒的な強さで無敗の二冠馬となったトウカイトイオー
- ② 2度目の骨折を克服し、1992年ジャパンカップを勝利
- ③ 3度の骨折を乗り越え、1993年有馬記念で奇跡の優勝を果たす

近代競馬の結晶

ディーブインパクト



STORY

サンデーサイレンスを父に持つ小柄なその馬は、2戦目の若駒ステークスで常識を覆す追い込みを見せ、早くもファンの間で三冠馬誕生への期待が高まった。

皐月賞ではスタート直後につまずきながらも快勝。その末脚を、主戦の武豊騎手は「走っているというより飛んでいるような感じ」と表現した。日本ダービーは大外を走らせながらも5馬身差の圧勝。菊花賞では「馬が1周目をゴールと間違えた」とのちに鞍上が話したように、道中で折り合いを欠きながらも最後は鮮やかに差し切り、史上2頭目の「無敗の三冠馬」となった。

あまりの強さに、走法が科学的に解析されたり、接着式の装蹄技術がクローズアップされたりと、日本中が「ディーブフィーバー」に沸いた。古馬になってからも天皇賞(春)では、驚異的なレース運びで芝3200メートルのレコードを記録。秋には凱旋門賞に挑戦。重たい空気を吹き飛ばすジャパンカップでの勝利。そしてラストランとなった有馬記念では、最後の最後で完璧なパフォーマンスを発揮した。絶対的な強さとドラマ性で人々の心を動かしつつづけた英雄は、観る人すべてに生きる勇気を与えてくれた。

PROFILE

ディーブインパクト (Deep Impact)

2002年3月25日生 牡 鹿毛	調教師：池江 泰郎(栗東)
父：サンデーサイレンス	生産牧場：ノーザンファーム
母：ウインドインハーヘア(父：Alzao)	通算成績：14戦12勝(うち海外1戦0勝)
馬主：金子 真人氏→金子 真人ホールディングス(株)	獲得賞金：1,454,551,000円



- ① 史上2頭目の無敗の三冠馬となったディーブインパクト
- ② 帰国初戦の2006年ジャパンカップを本来の走りで快勝
- ③ 2006年有馬記念を優勝し、絶対的な強さを誇ったままターフを去った

国民的スターのタッグでみんなの愛馬に

キタサンブラック



STORY

母の父は短距離王サクラバクシンオー。それゆえ距離限界説も囁かれたが、3000メートルの菊花賞を優勝。レース後は京都競馬場に、北島三郎氏の「まつり」の歌声が響いた。

4歳になった2016年からは武豊騎手が主戦となり天皇賞(春)、ジャパンカップなどを制し、年度代表馬に選出された。

17年は、G1に昇格したばかりの大阪杯での完勝を皮切りに、天皇賞(春)をレコードで連覇。しかし続く宝塚記念ではまさかの9着に終わり、半信半疑なムードのまま迎えた天皇賞(秋)。スタートでまさかの出遅れをし、観衆の不安は増大した。しかし鞍上は冷静に馬を走らせ、不良馬場の中で後方を進みながら、馬場が荒れたために他馬が避けた4コーナーの内側を通過していくの間にか先頭に立つと、そのまま粘りこみ勝利。「神騎乗」と讃えられた。「武豊騎手が乗って北島三郎さんが歌う」という国民的スターの共演は、ラストランの有馬記念優勝でフィナーレを迎えた。当時の最多タイ記録のG17勝をマークし、通算獲得賞金は18億7684万3000円に達した。

PROFILE

キタサンブラック (Kitasan Black)

2012年3月10日生 牡 鹿毛	調教師：清水 久詞(栗東)
父：ブラックタイド	生産牧場：ヤナガワ牧場
母：シュガーハート(父：サクラバクシンオー)	通算成績：20戦12勝
馬主：(有)大野商事	獲得賞金：1,876,843,000円



- ① 2017年天皇賞(春)を3分12秒5のレコードで優勝
- ② 北島三郎氏は「まつり」の熱唱でファンを楽しませた
- ③ 出遅れ、不良馬場を克服し2017年天皇賞(秋)を制す

日本のマイル王が世界のマイル王へ

タイキシャトル



STORY

3歳だった1997年、JRA賞最優秀短距離馬に選出されると、翌98年夏、フランスに遠征。ドーヴィル競馬場で行われた伝統のマイルG1、ジャックルマロワ賞を制した。その前週、シーキングザパールがモーリスドゲスト賞で日本馬による海外G1初制覇を遂げたばかりで、2週連続での日本馬の快挙が現地のファンや関係者に与えた衝撃は大きかった。

タイキシャトルを管理した藤沢和雄調教師にとっても、騎乗した岡部幸雄騎手にとっても、これが海外G1初制覇であった。その12年前、岡部騎手は「最強馬」シンボリルドルフと共にアメリカのG1、サンルイスステークスに臨み、6着に敗れていた。当時、藤沢調教師は、調教助手としてシンボリルドルフに稽古をつけていた。そう、タイキシャトルの海外G1制覇は、日本を代表するホースマンの積年の夢が叶った瞬間でもあったのだ。

同年、タイキシャトルは短距離馬として初めて年度代表馬に選出された。また、短距離馬として初めて顕彰馬になったのもこの馬であった。

PROFILE

タイキシャトル (Taiki Shuttle)

1994年3月23日生 牡 栗毛	調教師：藤沢 和雄(美浦)
父：Devil's Bag	生産者：Taiki Farm
母：Welsh Muffin(父：Caerleon)	通算成績：13戦11勝(うち海外1戦1勝)
馬主：(有)大樹ファーム	獲得賞金：637,705,000円(海外含む)



- 1998年ジャックルマロワ賞を制したタイキシャトル
- 海外G1初制覇を果たした岡部幸雄騎手(一番右)と藤沢和雄調教師(右から三人目)
- タイキシャトルの引退式。1998年JRA賞年度代表馬に選出された

世界最高峰の舞台で勝ちに等しい銀メダル

エルコンドルパサー



STORY

「コンドルは飛んでいく」。ペルーの民謡でサイモン&ガーファンクルが歌ってヒットした曲名から名前を得たこの外国産馬は、4歳になった1999年、日本のホースマンの夢とも言われていた凱旋門賞制覇を最大目標とし、ヨーロッパへ遠征した。当時の日本調教馬としては異例の長期遠征であった。

遠征2戦目、サンクルー大賞でフランスG1初制覇を達成。フォワ賞(1着)をステップに、凱旋門賞に臨んだ。1番人気はフランスとアイルランドのダービーを圧勝した3歳馬モンジュール。2番人気に支持されたエルコンドルパサーは果敢にハナを切り、2馬身ほどのリードを保ったまま直線へ。外から急追してきたモンジュールと激しく競り合い、いったん前に出られながら差し返すも、最後は半馬身差の2着に惜敗した。敗れはしたが、世界最高峰の牙城を崩しかけた走りのインパクトは凄まじく、「勝ちに等しい2着」と讃えられた。当時のレーティングは134ポンド。日本調教馬としての最高値は2023年にイクイノックスが135ポンドを与えられるまで、実に24年間破られていなかった。

PROFILE

エルコンドルパサー (El Condor Pasa)

1995年3月17日生 牡 黒鹿毛	調教師：二ノ宮 敬宇(美浦)
父：Kingmambo	生産者：Takashi Watanabe
母：Saddlers Gal(父：Sadler's Wells)	通算成績：11戦8勝(うち海外4戦2勝)
馬主：渡邊 隆氏	獲得賞金：453,000,800円(海外含む)



- 1999年凱旋門賞に挑むエルコンドルパサーと鎧名正義騎手
- エルコンドルパサーは直線で約2馬身のリードをとる
- 最後はモンジュールにかわされ半馬身差の2着に終わった

変幻自在の圧勝劇で世界トップに輝く

イクイノックス



STORY

クラシックでは皐月賞、日本ダービー共に2着と涙をのんだが、天皇賞(秋)と有馬記念を制し、2022年の年度代表馬に選出された。

23年はドバイシーマクラシックから始動。序盤からハナに立ち、直線では持ったまま後続との差を広げ、最後は流すようにしてレコードで圧勝。レース内容が評価され、その時点でロンジンワールドベストレースホースランキングで世界一となった。

帰国初戦の宝塚記念は、一転して後方からの競馬となるも完勝。天皇賞(秋)ではハイペースのなか先行し、1分55秒2という驚異的なレコードで勝利をおさめた。ラストランとなったジャパンカップも同様のレースで4馬身差の圧勝。走るたびに評価を高め、同ランキングで世界一の座を守り続けた。

23年末に最強のまま惜しまれつつ引退。種牡馬として初年度ながら2000万円という種付料が設定されており、これは父キタサンブラックと並んで国内最高額。初年度産駒は早ければ2027年にもデビュー予定で、その活躍が大いに期待される。

PROFILE

イクイノックス (Equinox)

2019年3月23日生 牡 青鹿毛	調教師：木村 哲也(美浦)
父：キタサンブラック	生産牧場：ノーザンファーム
母：シャトーブランシュ(父：キングヘイロー)	通算成績：10戦8勝(うち海外1戦1勝)
馬主：(有)シルクレーシング	獲得賞金：2,215,446,100円(海外含む)



- 逃げの戦法で圧勝した2023年ドバイシーマクラシック
- 驚異的なレコードで勝利した同年の天皇賞(秋)のレース後
- 続くジャパンカップで日本馬歴代最高となる135ポンドの評価を得た

肆
夢

世界に挑戦したHERO

強い気持ち 至高の対決を 繰り広げたHERO

激闘を繰り返した三強

テンポイント VS トウショウボーイ VS グリーングラス



左:トウショウボーイ、中:テンポイント、右:グリーングラス

これぞ世紀のマッチレース

ナリタブライアン VS マヤノトップガン



左:マヤノトップガン、右:ナリタブライアン

ゴールした瞬間伝説に

ウオッカ VS ダイワスカーレット



手前:ウオッカ、奥:ダイワスカーレット

STORY

馬名の頭文字から「TTG三強」と呼ばれた。3頭とも1973年に生まれ、76年のクラシックを戦った世代である。初の揃い踏みは菊花賞。「緑の刺客」グリーングラスが勝ち、「流星の貴公子」テンポイントが2着、「天馬」トウショウボーイが3着だった。その後、三強が一緒に出走したふたつのレースでともに1〜3着を独占している。

なかでも名勝負として語り種になっているのが、結果として最後のTTG対決となった77年の有馬記念だ。序盤からトウショウボーイとテンポイントが抜きつ抜かれつ先頭争いを繰り広げた。直線でも2頭の激しい競り合いは続き、外からグリーングラスが並びかけたところで勝負が決した。勝ったのはテンポイント、2着はトウショウボーイ、3着はグリーングラスだった。

なおトウショウボーイは、このレースを最後に引退。勝利したテンポイントは、年明けの日本経済新春杯でまさかの骨折・競走中止。長期の治療の甲斐もむなしく天国へと旅立った。またグリーングラスは、この後2年間現役を続け、79年の有馬記念で有終の美を飾った。

PROFILE

テンポイント (Ten Point)

1973年4月19日生 牡 栗毛
父:コントライト
母:ワカケ母(父:カバラーツブ二世)
馬主:高田 久成 氏
調教師:小川 佐助(栗東)
生産牧場:吉田牧場
通算成績:18戦11勝
獲得賞金:328,415,400円

トウショウボーイ (Tosho Boy)

1973年4月15日生 牡 鹿毛
父:テスコボーイ
母:ソシアルバスターライ(父:Your Host)
馬主:トウショウ産業(株)
調教師:保田 隆芳(東京)
生産牧場:藤正牧場
通算成績:15戦10勝
獲得賞金:280,774,800円

グリーングラス (Green Grass)

1973年4月5日生 牡 黒鹿毛
父:インターメソ
母:ダーリングヒメ(父:ニンバス)
馬主:半沢 吉四郎 氏
調教師:中野 隆良(中山→美浦)
生産牧場:諏訪牧場
通算成績:26戦8勝
獲得賞金:328,451,400円

第22回有馬記念 1977年12月18日 中山 晴・良 芝2500m 8頭

着順	馬番	馬名	性別	斤量	騎手	タイム(着差)	単勝オッズ(人気)	調教師
1	③	テンポイント	牡4	56	鹿戸 明	2:35.4	2.0①	小川佐助(栗東)
2	①	トウショウボーイ	牡4	56	武 邦彦	3/4	2.2②	保田隆芳(東京)
3	⑥	グリーングラス	牡4	56	嶋田 功	1/2	7.0③	中野隆良(中山)
4	⑤	プレストウコウ	牡3	54	郷原洋行	6	7.1④	加藤朝治郎(中山)
5	②	トウフクセダン	牡4	56	宮田 仁	3 1/2	50.0⑦	大久保未吉(東京)

※馬齢は満年齢表記

STORY

1994年の三冠馬ナリタブライアンと、一つ年下の菊花賞馬マヤノトップガン。2頭が初めて対決したのは95年の有馬記念だった。このレースはマヤノトップガンが逃げ切り、春に股関節の故障を患って未だ本調子でなかったナリタブライアンは4着に終わった。

2度目の直接対決は、翌96年の阪神大賞典。年度代表馬同士の対決を観るため阪神競馬場に集まった観衆は、土曜日としては異例の5万9896名。競馬場内にはレース前から異様な雰囲気が高まっていた。レースは2周目の3コーナーで早くも動く。マヤノトップガンが仕掛けて進出し、先頭に立つと、それをマークするようにナリタブライアンも動き出した。2頭で並びかけたまま4コーナーに入り、ラスト600メートル地点から完全にマッチレースの様相に。馬体を併せた両馬は、持ったまま後続を引き離して行く。歓声のボルテージが高まる。直線でも激しい競り合いが続き、2頭は並んだままゴールした。最終的にはナリタブライアンがアタマ差だけ出ていたが、3着との差は実に9馬身。平成を代表する名勝負として、今も競馬ファンの間で語り継がれる一戦である。

PROFILE

ナリタブライアン (Narita Brian)

1991年5月3日生 牡 黒鹿毛
父:ブライアンスタイル
母:パシフィックス(父:Northern Dancer)
馬主:山路 秀則 氏
調教師:大久保 正陽(栗東)
生産牧場:早田牧場新冠支場
通算成績:21戦12勝
獲得賞金:1,026,916,000円

第44回阪神大賞典(GII) 1996年3月9日 阪神 晴・良 芝3000m 10頭

着順	馬番	馬名	性別	斤量	騎手	タイム(着差)	単勝オッズ(人気)	調教師
1	②	ナリタブライアン	牡5	59	武 豊	3:04.9	2.1②	大久保正陽(栗東)
2	⑩	マヤノトップガン	牡4	58	田原成貴	アタマ	2.0①	坂口正大(栗東)
3	⑦	ルイボスゴールド	牡4	56	坂口重政	9	99.2⑦	大倉 護(笠松)
4	③	トウカイパレス	牡4	56	佐藤哲三	1/2	12.2④	中村 均(栗東)
5	⑧	ハギノリアルキング	牡6	58	藤田伸二	ハナ	9.2③	小林 稔(栗東)

※馬齢は満年齢表記

マヤノトップガン (Mayano Top Gun)

1992年3月24日生 牡 栗毛
父:ブライアンスタイル
母:アルプミーブリーズ(父:Blushing Groom)
馬主:田所 祐 氏
調教師:坂口 正大(栗東)
生産牧場:川上 悦夫 氏
通算成績:21戦8勝
獲得賞金:810,390,000円

STORY

64年ぶりの牝馬のダービー馬ウオッカと、全レースで2着以内を外したことがないダイワスカーレット。同世代の名牝対決のクライマックスは、2008年の天皇賞(秋)であった。

安藤勝己騎手騎乗のダイワスカーレットがハイペースで逃げ、対する武豊騎手騎乗のウオッカは中団に待機。ダイワスカーレットが先頭のまま直線へ。ウオッカが大外から猛然と追い込み、ダイワスカーレットが驚異的な二の脚で差し返す。2頭が鼻面を揃えてゴールを駆け抜けた。勝ったのは、内のダイワスカーレットか、外のウオッカか。肉眼では判別できなかった。電光掲示板には、従来の記録を0秒8更新する1分57秒2のレコードタイムが表示されていた。

約13分にも及んだ、長い写真判定の結果が出た。「ゴールした瞬間伝説になった」とも言われた世紀の名勝負を制したのは、ウオッカだった。2000メートルを走って、着差は推定「2センチ」しかなかった。

PROFILE

ウオッカ (Vodka)

2004年4月4日生 牝 鹿毛
父:タニノギムレット
母:タニノシスター(父:ルシオン)
馬主:谷水 雄三 氏
調教師:角居 勝彦(栗東)
生産牧場:カントリー牧場
通算成績:26戦10勝(うち海外4戦0勝)
獲得賞金:1,333,565,800円(海外含む)

第138回天皇賞(秋)(GI) 2008年11月2日 東京 晴・良 芝2000m 17頭

着順	馬番	馬名	性別	斤量	騎手	タイム(着差)	単勝オッズ(人気)	調教師
1	⑭	ウオッカ	牝4	56	武 豊	R1:57.2	2.7①	角居勝彦(栗東)
2	⑦	ダイワスカーレット	牝4	56	安藤勝己	ハナ	3.6②	松田国英(栗東)
3	②	ディーブスカイ	牡3	56	四位洋文	クビ	4.1③	昆 貴(栗東)
4	⑩	カンパニー	牡7	58	横山典弘	ハナ	52.8⑩	音無秀孝(栗東)
5	③	エアシェイティ	牡7	58	後藤浩輝	クビ	33.6⑧	伊藤正徳(美浦)

ダイワスカーレット (Daiwa Scarlet)

2004年5月13日生 牝 栗毛
父:アグネスタキオン
母:スカーレットブーケ(父:ノーザンテースト)
馬主:大城 敬三 氏
調教師:松田 国英(栗東)
生産牧場:社台ファーム
通算成績:12戦8勝
獲得賞金:786,685,000円

